

上天草市



堀江 隆臣 市長

上天草市は、穏やかな海に囲まれた大小68の島々で構成される自治体です。1966年の天草五橋開通により、観光業をはじめ各種産業の存続基盤となって、市民の暮らしを支えています。人口は市政施行時が32,502人(2005年)であったのに対し、2020年には24,563人にまで減少していますが、「ナナメ上ノ上天草」を観光ブランドコンセプトに掲げ、ナナメ上に行く自治体を目指して様々な事業にチャレンジしています。

寄付御礼

- ・贈呈式開催(首長出席、寄付額50万円以上)
- ・感謝状贈呈(寄付額10万円以上) ・地公体広報誌掲載 ・HP掲載 ・視察受入
- ・功労者表彰推薦 ・紺綬褒章推薦
- ・その他(寄附企業様との連携について積極的に取り組みます。)



人口	面積	産業構造
総人口……24,563人 男……11,502人 女……13,061人 世帯数……10,034世帯	総面積……126.94km ² 農用地……11.00km ² (8.7%) 森林……76.14km ² (60.0%) 宅地……6.87km ² (5.4%)	第1次産業……2,545(3.3%) 第2次産業……11,405(15.0%) 第3次産業……62,157(81.7%) <small>生産総額:百万円</small>
人口構成比	教育機関	高等教育機関
15歳未満……10.4% 15～64歳……47.5% 65歳以上……42.1%	小学校……11校 中学校……6校 高等学校・高専……1校 大学・専門学校他……1校	熊本県立上天草高等学校 (普通科)

交通アクセス

- 上天草市役所まで
- 三角大矢野道路 登立ICから……約2.2km
- JR三角駅から……約7km

※データは令和4年7月発行、熊本県市町村要覧をもとに作成しております。

上天草市まち・ひと・しごと創生推進計画

魅力的で持続可能なまちづくり



- 基本目標 1** 上天草市への人の流れをつくる
豊富な地域資源を活用した観光振興の取組の強化と移住・定住による地域活性化の促進
- 基本目標 2** 安定した魅力ある雇用を創出する
若い世代の定住を促進させるため、市の産業を強化し魅力ある雇用を創出
- 基本目標 3** 市民の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
安心して結婚・妊娠・出産・子育てをしやすい地域づくりに向けた環境の整備と安心して働くことができる職場環境づくりを促進
- 基本目標 4** 魅力的な地域をつくり、安心して快適な暮らしを創出する
地域に誇りを持ち、安心して暮らせる地域コミュニティの維持を図り、各地域の実情に応じた魅力的な「まち」をつくるための基盤となる人材の育成と活躍の支援

上天草市

新しい民間企業の技術・ノウハウを積極的に活用したい政策課題・取り組み

1 課題 釣りによる交流人口・関係人口を拡大!

本市は市内外から多くの釣り客が訪れる釣りのメッカとして、県内外に認知されていますが、日帰りでの釣り客がほとんどを占めており、本市への経済波及効果が低いことが課題となっています。

市内にある釣具店、遊漁船、宿泊施設、飲食店等が連携した仕組みを構築して、本市への釣り客を増加させ、経済波及効果を高めたいと考えています。



穏やかなで魚種が豊富な海

2 課題 今あるモノ・スペース・スキルで経済発展!

本市は風光明媚な景観と天草五橋を始め多くの景勝地が点在する熊本県内でも有数の観光地ですが、人口減少及び少子高齢化が急激に進行し、それに伴い、様々な課題を抱えています。

市民による空間・移動・スキル・モノ等の共有(シェアリングエコノミー)を通じて、様々な課題を解決し、持続可能な地域及び自治体を目指します。



シェアリングエコノミー協会との連携協定

3 課題 増加する市内の空き家を活用したい!

本市は、人口減少・高齢化とそれに伴う空き家の増加という課題も抱えており、空き家の利活用の推進及び移住定住の促進を目的に、平成28年度から空き家バンク制度を開始して、移住希望者への受け皿として紹介しています。

本市は、令和3年度には全国古民家再生協会熊本及びRsmile株式会社との三者協定を締結し、空き家の発生抑制と空き家利活用を推進しています。



徐々に進む本市の空き家の利活用

4 課題 市内唯一の高校の魅力向上を図りたい!

市内唯一の高校である上天草高校への入学者数については、少子化等の影響により年々減少傾向となっており将来的な維持・存続が危ぶまれています。

市では、今後の入学者数の減少の抑制、さらには入学者数の増加に転じるような上天草高校の魅力向上を目指し支援を行っています。



大矢野・松島商業・天草東が合併して創立

5 課題 自助自立のまちづくりで地域活性化!

本市は、地域の団体によるまちづくりの気運醸成を図り、地域による市の活性化につなげるため、そのスタートアップ等に関する支援として「自助自立のまちづくり」を行っているところですが、原資となる基金が枯渇化しています。

市では、継続して住民主体の自助自立のまちづくりを支援し、地域コミュニティの維持及び地域の活性化を図っていきます。



海に囲まれた地域で育つ子どもたち

重点プロジェクト

島々を抱く穏やかな海とともに生き続けるためのプロジェクト

(SDGs)関連するゴール

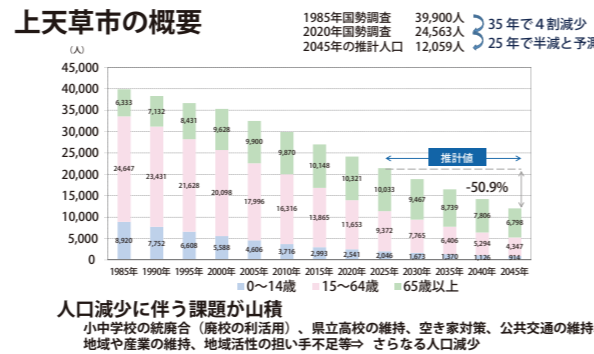


総事業費 各年度2,000万円程度を想定 寄附目標額 —
 数値目標 ●観光入込客数…2018年1,867,433人→2024年2,300,000人
 ●第一次産業就業者数 …… 2015年1,558人→2030年1335人

背景・現状の課題

本市においては、2022年度SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業に選定され、これを機に地方創生の推進をさらに加速させることとしています。また、「エネルギーの地域内循環等への取組」は、地域の脱炭素化のみならず、エネルギー自立化による災害対応や雇用や収益源創出にも効果的と考えられています。

上天草の美しい海や河川を守り、次世代へ引き継いでいくため、本市としても具体的な施策が問われており、持続可能な社会構築に向け「エネルギーの地域内循環」や「海を中心とする自然環境の保護」への取組を強化していきます。



事業の目的・内容

- ①穏やかな海を維持・向上させる取組(海を守る)を行い海の資源を守りつつ、
- ②穏やかな海の恩恵を活かす取組(海を活かす)を行い、観光産業、第一次産業及び内航海運業の振興並びに脱炭素の推進を図り、これに共感する関係人口を増加させ、並行して、③市民の生活の質(QOL)を向上させます(海と生きる)。

ブルーカーボンオフセットの取組として藻場によるCO2の吸収を通じた温室効果ガスの削減を図るため、関係団体と連携して藻場づくりを行い、温室効果ガスの削減が困難な企業などへのクレジット販売を促します。藻場によるCO2の吸収に加えて水産資源再生にもつなげます。



上天草市のSDGs循環イメージ

寄附の具体的なメリット

2030年の本市のあるべき姿を「島々を抱く穏やかな海で自然の恵みを活かしたサステナブルシティ」と設定し、その実現に向けてSDGsを積極的に推進しており、貴社のSDGsやCSRへの取組の一環として、是非ご賛同いただきますようお願いいたします。

寄附申出書の事業名選択時は「上天草市に住みたくなる事業」を選択してください。

重点プロジェクト

ワーケーションによる地域の活性化

(SDGs)関連するゴール

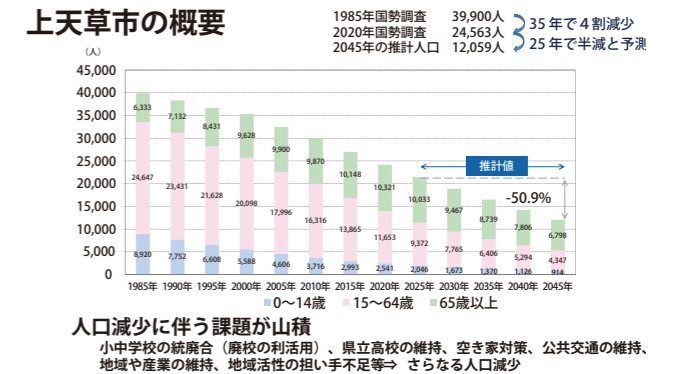


総事業費 — 寄附目標額 —
 数値目標 ●市内施設におけるワーケーション利用者数 …年間1,637人(2023.3.31)

背景・現状の課題

コロナを機に、「働き方」や「観光」が見直されており、感染リスクが少ない自然の中で仕事ができる場所として、観光地やリゾート地で仕事をする「ワーケーション」が注目されています。併せて、働き方や暮らしを見つめ直す機会が増え、地方への移住も増えています。

本市においては、これまで観光や移住定住に向けた施策を展開していますが、依然として「働く場がない」といった理由で、市外への流出等による人口減少が進んでいる状況です。



事業の目的・内容

ワーケーションは、本市の豊かな自然、地域資源を生かした体験やアクティビティを活用しながら、「働く場」として選んでもらえるよう「ワーケーション」ができる場所としてイメージを発信するとともに、ワーケーションを通して、交流人口・関係人口を増やし、将来的な移住を含めた地域の活性化を目指します。

継続した情報発信及びワーケーション体験の実施に加え、交流人口・関係人口の増加から移住者及び企業等の誘致につなげるため、サテライトオフィス開設のための支援を行い、本格的に「上天草市で住みながら働く人」を後押しします。



上天草市の景観を活かしたワーケーション

寄附の具体的なメリット

本市の食、景観、アクティビティなど、魅力的な観光コンテンツの強みを活かすことができる事業と考えております。地域貢献や地方創生への取組の一環として、貴社のブランディングやPRにつながると考えます。是非ご賛同いただきますようお願いいたします。

寄附申出書の事業名選択時は「上天草市に行きたくなる事業」を選択してください。

●その他の寄附事業に関しましては、最寄りの肥後銀行までお問い合わせください。